事例No.	2647
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	蒲生地区まちづくり協議会

事例区分	地域活性化

タグ	・地域運営組織 ・関係人口

事例種類	地域活性化

事例内容・タイトル

蒲生地区まちづくり協議会

出典

平成29年度ふるさとづくり大賞事例集

特定非営利活動法人のってこらい　三重県熊野市

概　要

過疎高齢化が進む熊野市五郷町では、かねてから集落の課題であった交通空白地等の交通不便地問題に対し、地域住民自らが立ち上がった。行政との連携のもと、平成22年に「特定非営利活動法人のってこらい」を設立し、三重県で初めて過疎地有償運送（現：公共交通空白地有償運送）の制度を活用し、地域が主体となった交通サービスを開始した。

きめ細かな交通サービスが提供されているおかげで地域住民は買い物や病院といった日常生活に不可欠な施設への移動が確保され、住み慣れた地域で安心していつまでも住み続けることができる。



評価された点



・公共交通空白地有償運送を自主財源で運営し、7年間継続している点を評価。
・クラウドファンディング等の新しい手法も活用することで、補助金に頼らず資金獲得を行い、広域で交通弱者支援を行っている点が評価できる。
・地域住民による自発的かつ継続的な有償運送は今後多くの地域に必要となるが、それらを補助金にたよらず運行されている点は評価に値する。
・過疎地・山間地交通弱者対策として、自主的、地域住民の力、行政・関連地域との連携により高い成果をあげている交通サービスの事例。
・地域の課題である過疎地の交通サービスについて、地域住民が主体的に取り組んでいる。また、その運営費が助成金に頼らず会費や運賃収入だけで行われている点は秀逸であり、他地域の同様な取組をしている団体にはひとつの参考例として紹介したい。

蒲生地区まちづくり協議会　滋賀県東近江市

概　要

蒲生地区まちづくり協議会の活動エリアである旧蒲生町では、平成18年１月１日、周辺の１市２町が合併し、「地域のアイデンティティがなくなるのではないか。」という不安があった。そういった思いから、蒲生地区に暮らす人々が、主体的・自立的に活動し、「このまちで心豊かに住み続けたい」と思えるまちづくりをめざして、蒲生地区まちづくり協議会が組織され、活動することとなった。



評価された点



・2030年のあるべき姿を描き、そこに向かって住民が主体的に魅力的な地域づくりに取り組んでいる。自治会、商工会、ＪＡ、医療機関、ＮＰＯなど様々な主体が参加することで、活動の幅が広がり、成果も上がっている。オリジナルでユニークな事業を次々に打ち出し、楽しみながら取り組んでいる様子が伺え、継続性も期待できる。
・住民が自らまちづくり計画を作成し、実践する。自立と自治へ向けた取組である。
・2030年の地域のビジョンを住民が主体となって議論・策定され、それにそって様々な活動を行っておられる点は、自治そのものであり、評価に値する。
・設立後１０年間継続して活動を積み重ねてきており、応援団も増えて体制も充実してきている。まちづくり協議会が中心となり実績ができてきていることが評価できる。